



聲の架

上





二流

殿江

後流人柱記

花中鳥歌



芭蕉桃香靈神 乃十月十五日 西を忌む事 二流の
依若祖格列之思瓦云

花本大明神と授弁良 作身言 将又先月廿六日 於
中開眼之 神能借步連歌 神樂行と居在也 神殿

二流殿

白州と幣もきくや 蓮の香

春さくら大流々々 花 鳥歌

し事あるはと昔のくちかへ何の事か
あつちかへあつちかへあつちかへ

同九冊

の
花
今
既

花

原出をきくを花を拓くを
井底宮牙くる水をもとむるを
とかや南へきる地は横をきくを
まみあ紀ふ教ふるをおおぬを
そむる能くそむるをきくを
物ふる過くはふく仲乃秋中の一
う。祀のぬのるす十回乃ちをきくを

りきんとあつて塚を拂ひ清き地内
小舟をさし向きとをさし乃雅ある
結り或ハ路跡をさるる或ハもつを
つらちつてやむをわちやかへばとは来
おほきやふとやむのき或ハともたつて
なつちちちせり乃き向きのけしあつ
はあしとあつてつらちつてつらちつ
えとつてつらちつてつらちつと

あつてつらちつてつらちつてつらちつ
あつてつらちつてつらちつてつらちつ
あつてつらちつてつらちつてつらちつ
あつてつらちつてつらちつてつらちつ
あつてつらちつてつらちつてつらちつ
あつてつらちつてつらちつてつらちつ
あつてつらちつてつらちつてつらちつ
あつてつらちつてつらちつてつらちつ
あつてつらちつてつらちつてつらちつ
あつてつらちつてつらちつてつらちつ

梅のまふ信





まのむしの
きんぎょ

まのむし

まのむし
庵



祖翁真迹之分

善く計るを

きふく的事

古池や桂

先事のむ

山里ハ万葉

け程をさる

一里ハいふ花鳥

婦くまると山姥

涼しきやまより聖天川

明新千二十七款

巧く海中伝説

孟々泥菜の海

一軸 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同

松茸ふたけの汁よ
 古々や梅の緒つづ
 赤くと日ハ
 二日もぬく
 字もや小糖の
 やうて志ぬ系しき
 名月状立
 茶葉新の分
 色のは唇をし
 門人名前録
 俳諧忘書
 及に切屏風
 ころと

一巻
 一雙
 一巻
 一巻
 一巻
 一巻
 一巻
 一巻
 一巻
 一巻
 一巻

水跡笛
 東麓西麓之文
 末期之文
 西兄弟
 嵯峨日記

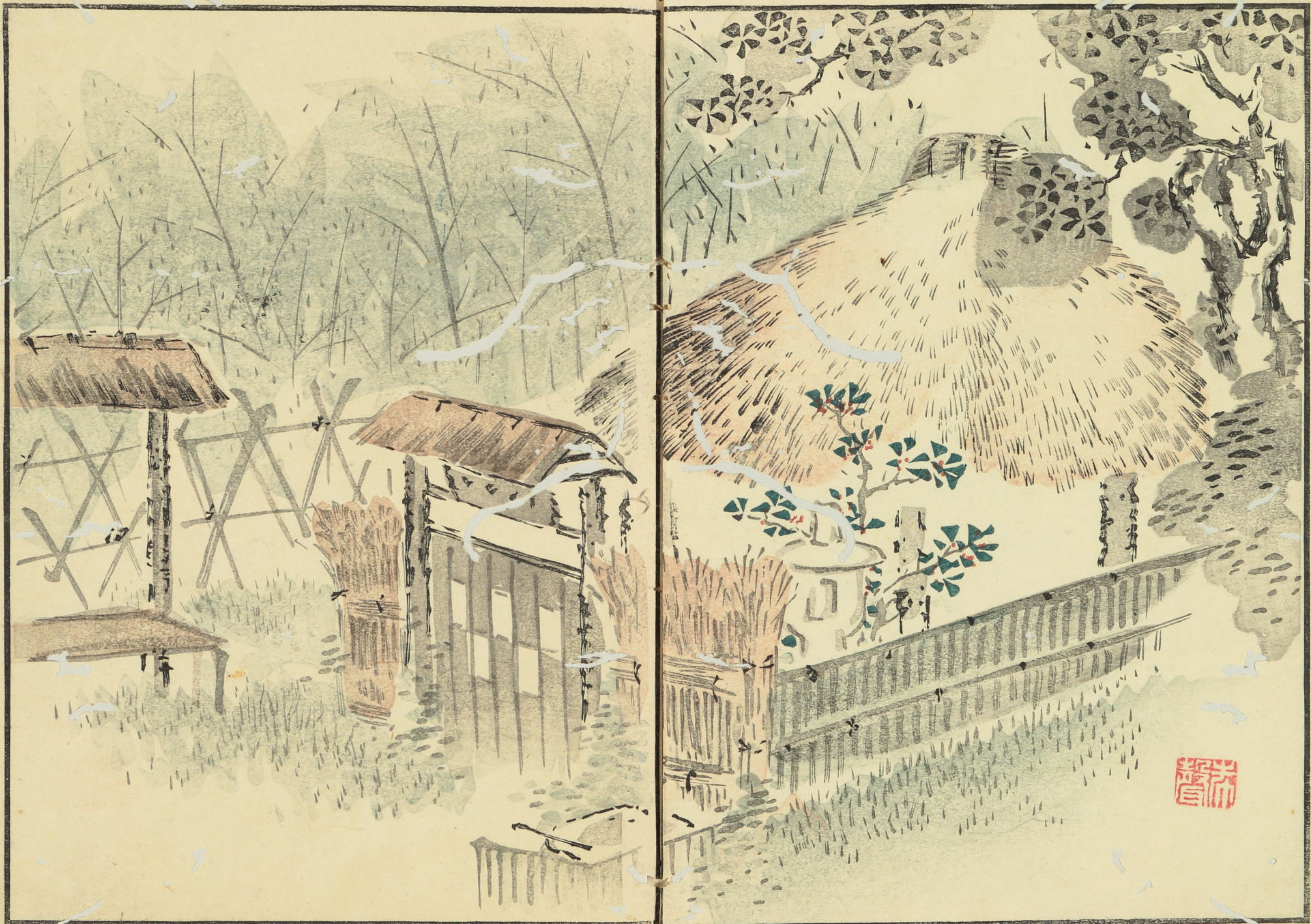
一巻

祖翁古郷塚之圖

碑面

芭蕉桃青法師

玄峰庵嵐雪之筆



天保三寅八月十二日於吉口塔
芭蕉翁百五十遠忌追福典行

眼起能語之連歌

この予々しき縁ゆきまよの尾

祖歌

今も終まむ池水の月 二石

帘の中川眼さくさくさす晴く 梅室

人まををやうきさのある市 遠水

ひまくと扱いさくたけさくさ 一志

自中し楫残さくさ川口 鷺秋

何ほへやら因るハそれる松の風 磯山

崇都の原も枯るるあなご 求古

ふいつを奥の心家へ費るる 杜鰲

き件海をなせ残るる 金波

まことの分るる名を帯 賀園

は未を那てもえする 傘 魯月

交るの夜宿茶へ格子さ 希声

故巻うたふきくきし 淡菴

うた書く 経の志をうた 芦岸

まことれらに吸あめ 子子

上

搬移のめりふりあきの月 梅價

園のしつらうと 木容

将衣の社もちきれる形分ぬ 挑溪

又一二刺能え 楓不

とれども又花も地をさう風を 其容

斤なうさふ 子石

ちのるるけわぬおぬ社も人像 馬文

かいらさる 士遊

昔の飛ぶ襟の刻志を積ま 楓下

は速引はらす 一東

か服に家のやうな 武者橋 凸凹

いら入梅なれとるうつりふ 九富

先行の時代と合致ハ伐きくち 若阜

炬のおもくさうとてふき 杏翁

かくされと文箱せまき侍後口 寿堂

えふれく切をうつ水鉦 政年

ふれとふ菜の母とつぬなち 備美

遊むのほれいおらぬ庭倉 郎水

くのせぶささあさきやせ 悠年

やくそく多き瓜のこくせ 卧雪

ニッ 二六のうらふいやくきまう 月石

塔の九輪のうらふくまうと 露洲

けきおれく牛越ユ合ふまう 秋村

被の人よらあう肝げん 風光

もの流乃やまきあうまうき 毛橋

骨半時ふなりし年の尾 里柏

腰板の木地のかきある番をう 梅亭

うちさうふのむる梅板のみ 春領

涼しき月の木をみだをこめて 惟草

飛束のさきとさきとぬき直り 双危

先標之足のきりれを(高き)おろし

鳳尾

二子猿戸又かうとうなる象

如風

昇るる招引の花枝(とらみ)

梅色

半(さ)やさるる(さ)地(さ)す

子字

結春も志らるる仕舞ふも古用

春坡

神(さ)るる(さ)ふた(さ)磨(さ)也

正木

小軍(さ)りる(さ)人(さ)夫(さ)の(さ)拂(さ)夜(さ)

瓢石

昔(さ)火(さ)又(さ)負(さ)を(さ)投(さ)ぬ(さ)焼(さ)く

玉脂

積(さ)るる(さ)雲(さ)の(さ)ら(さ)あ(さ)を(さ)扱(さ)い(さ)き(さ)う

岳風

舟(さ)の(さ)ね(さ)て(さ)た(さ)も(さ)こ(さ)ぬ(さ)ふ(さ)仕(さ)し(さ)

九起

湖(さ)ま(さ)も(さ)流(さ)れ(さ)る(さ)ら(さ)の(さ)古(さ)藝(さ)者(さ)

月坡

ち(さ)き(さ)れ(さ)草(さ)履(さ)裁(さ)浪(さ)と(さ)あ(さ)る(さ)

芦洲

厚(さ)草(さ)の(さ)ふ(さ)り(さ)あ(さ)ら(さ)る(さ)れ(さ)お(さ)あ(さ)ら(さ)

照布

輪(さ)の(さ)そ(さ)る(さ)い(さ)ら(さ)り(さ)ぬ(さ)路(さ)う(さ)ら(さ)に

雲字

口(さ)を(さ)あ(さ)き(さ)いて(さ)日(さ)産(さ)の(さ)寄(さ)を(さ)し(さ)み

風阿

急(さ)し(さ)も(さ)張(さ)る(さ)り(さ)る(さ)系(さ)方(さ)

不二柱

子(さ)ら(さ)り(さ)月(さ)と(さ)小(さ)空(さ)き(さ)歩(さ)ま(さ)梳(さ)

子章

乙(さ)寸(さ)も(さ)半(さ)さ(さ)る(さ)程(さ)の(さ)大(さ)き(さ)

乙勢

草(さ)心(さ)へ(さ)庭(さ)ら(さ)ち(さ)る(さ)り(さ)ら(さ)る(さ)

梅枝

ぬ(さ)り(さ)杖(さ)は(さ)け(さ)ハ(さ)顔(さ)を(さ)え(さ)ら(さ)る(さ)

永年

丁子風呂毎日入きと香も涼し 鹿角

車軸うして一念もなす 孝良

ほまじ一口舌を伝母の乳くさ 鼻高

馬も通らぬ酒形寺あら 鳥乙

話てこそきこむおとすを招の昔 草丈

月の雲のふほくさくさり日 梅暇

色は又逢ふくちる群るなま 亨弘

死所の候又連るまやり 少雄

花やうぬれくさくさ忌鼓打 林若

曇るくさくさくさくさ人丸 信玄

うへへ厚削く列をぬりかき 鉄富

二三日船の波る下の瀬 余力

まのこも晴ぬり粉成きらくおや 石鼎

ふさくと移るくさのぬり 我富

とふしても奉公くさくさきひきき いたほ

枝弱なれと自中なる高 梅隣

つまさく硯のふき一寸ともひ 橋治

おしきくさりの袴のなまき 国重

さらりと砂のあふく瀬やま 竹山

登招よりきくさくさくさくさ 双鶴

糸をとつた礼に舞ひ我は海子 頼賢

持事つる筆紙花子 辻之助 与丈

鳥より驚きさうとく追うけく 与石

疵痕汁を送りせはる骨 与一

卵多れと月いそぎ紙つれくじ 且多

露のなうれる庭に表石 多轍

志ら花の隣りやうの鈴路景 与楓

から子振ても鳩のつらまる 松步

笑ふ来りふとよとく物も仕立き中 草也

つゝとくう亀寸は海の子持 梅井

正風

儉約の心とをやらぬ 葛根をり 清高

はくく日あり引拂ふふの 蕩刀次

号さき花紙あるの化城不 与白

と采な道をふかきふたあ 拾五

配役

奠供

地福寺
春日寺

寬辭
快應

祭文

持佛寺

梵甲

表白

万福寺

隆海

唱禮

院主

慈善

呗匡

藥師寺

吳朝

散花

藏之坊
安樂院

惠田
賢亮

前讚

毘沙門寺
善福院

義亮
杖淨

經頭

隅之坊

智專

後讚

神王寺
密乘院

觀頌
惠光

廻向

大福寺

明鏡

右所定如件

維天保十三壬寅歲

八月十有一日

宗匠

副匠

執筆

捻香

座見

應容

梅室

虛白
礪山

拾五

遠水

杜鰲
杏存

正木
卧雪

董溪
政年

津晃

春眠
橘治

一東

双鵝

月石

千艸

金波
梅隣

若阜

芦岸
五橋

魯月

軸物掛り

餐頭

補助

草子
賀田
希声

會頭

遠水
求古
鷺秋

上八

たるりーわふふる根のそはそ 梅家
 みのむれき銭かまそ泣りぬ 青白
 霜のぬかりりり生ぬの丸くさる 一志
 時子金々似るほそくや秋の空 杜鷺
 嗽しそ初名きくや露草 礪山
 空々鼻あそ 竹鳴く埜々や 江戸鳳朗
 蒼々そそ身も志々 竹々秋の風 大坂 八千房
 中皇と後々々々々々々々々々 三原 卓池
 古々 此々々々玉々々 芭蕉う那 大坂 鼎左
 中々々々々々々々々々々々々々 古々塚 井左

籠ふしりや 雲はなまき

樵室

時多しや 年くふも 芭蕉の根

井賢

木魚しりく 寺の鐘 鐘くも

素庵

りふしり 塚の時 秋を

天来

大空とむら けを

其瓊

秋のこれ 籠ふしり

一七

籠ふしり 籠ふしり

枕溪

籠ふしり 籠ふしり

梅暎

籠ふしり 籠ふしり

九起

籠ふしり 籠ふしり

林曹

上九

籠ふしり 籠ふしり

梅優

籠ふしり 籠ふしり

惟草

籠ふしり 籠ふしり

一七

籠ふしり 籠ふしり

且高

籠ふしり 籠ふしり

夜白

籠ふしり 籠ふしり

岳風

籠ふしり 籠ふしり

昇高

籠ふしり 籠ふしり

蟻兄

籠ふしり 籠ふしり

寧二館

籠ふしり 籠ふしり

水哉

此ころのまゝしきしきの人 イセ山田 省吾

その時先子向をり 大ウ 子良

秋の葉もぬけぬえ 京 拾五

松葉の木の葉 京 杜若

松の野のまゝ 京 松尾

相一葉 白子 松尾

おしほ 白子 標六

おね 白子 乙船

おま 白子 木容

古のやけ イカ 松尾

上十

く 江右 禾明

松の葉 京 水良

田 京 水良

こ 京 魯風

と 京 如風

床 京 太一

正 京 如風

名 京 花山

ま 京 鯉旭

小 京 中吉

葉の香も油んいせといとききき 猶年

春風や屏風も清むいせ木槿ふさぎ 巴城

志格もつるやいるのたまたま 一山

冬ゆきもふのうしろやいとる家 度柳

枯もより尾花名もきい深き水 太サ肥

ハ翔やあまのたふれも白鷺 一之

志ら翁もききほく物活の白むいせモクナツカ 波月

清ゆきもほくほくまの虫の身い 紫葉

るのあもきききききききい 謝年

暮入やまけおもあまのあい 夢中

上土

舞風の吹ひらけりやいのあま 一啓

とるうやいかふい納いの不い 光石

きききききききききい 一丘

ふとふいくいもいないていまいのいまい 村山

仕おるい終いしい仕い事いのい中いへい糸いのい月い 柵子

其の敷も入るい時いもいあい後いりい 急水

山いひいのい幸いしいろいもいへいてい名い残い月い 宗武

るも終もい河い霧いのいまいりい 柵渡

とくいれいハいあいりい片い庭いしい月いのい絲い 孝石

おろいもいいいりいもい毫いりい角い刀い取い 可松

ちかしく方よりてくちあふ葉の糸 京 橋治
 底言もあふよしと引月えり 江呂 箕玉
 山はささこ飛くは物もみちう 和良 鯉桃
 叶あしやあめりあはさし 大坂 貞家
 叶くの中は葉し居る 京 花庵
 遥か乃ち先ぬし 作良 樗童
 種のもも丸くすりや教 イセ 芙山
 幾時もおれし 上 雙龍
 今もあはさるや 上 柳珉
 清くはあふ たり 猪吹

花あはさる 大坂 菊芝
 人のあふ 大坂 東塔
 甘菴は 春風
 叶の戸より 松室
 草く 知童
 風の 紫造
 一ふに田や 豊雪
 葉あは 九糸
 かの道や 加賀 下遊
 静く 雨伏

家原の竹を今式のむしろく
かぐろくろく風情や枯屋系
満月巾多き今山の何る新
教士のあはく増やう人の月
竹をまてしき人の菊の白うな
古口の遠思をうし月の縁
灯をむき夜きり危竹乃る
猿もあてけも清くん秋夕
孟蘭盆はかきけをうし月如
新葉のむしろくの白うは
南徳

上五

年くろくをうし塚のさう
月けあ中の隈く鶴くし
声くけむしう白のあち心
何見てもおろくあうて縁の
塚のねとあはく成し跡暑く
よきつけいぬく斗や竹の
存外とさ暖く梅乃老樹く
いきあはくもう新くあや
更る何と遠きけさうや
面影のうけくぬ縁乃凡

京 不娶
アキ 南枝
ハミ 花屑
イカ 二交
京 如流
十六 斜月
京 其山
京 仙家
如柳
南徳
山風
凡光
化蜀
芋丈
南枝
鳥乙
邪言
若阜
里栢
雲突

伊予北条きき茶中虫の味南都金葩

重むし何一人もな〜りの月作州茶尺

鐘はきも丸事守り中教一曼、笑山イセ

かきりあき空又月あそ大け會イセ淇悠

たけり時多又嘆之ま苦乃急ナガリ折枝

志は〜り雨より家のそき危江州玉脂

あ〜る雪のむり〜を丁の味物也イカ玉亭

本末ハおま〜流る中枯の水大板草乙

翁忌中思ハハ神も家のた〜くイカ虫風

備〜しり神もあ〜る日のイカ工青

な〜りた〜る〜らな〜るあ〜る月の人ナニハ貞野

位も〜〜菴も〜〜虫のきイカ水龍

通ぬ事乃刺き傍〜〜れ新ナニハ月窓

蓑む〜のきハゆ〜へ〜あ〜るひ〜るイカ路月

長首多神もあ〜る〜〜〜られ椽イセクモツ梅門

新廻と新又菜〜り〜〜〜らイセ白雪

苔の伸〜して羽〜〜〜鴨や〜〜あナニハ標園

苔のあ〜る〜さや〜る五十年イセ宜涼

子向きなれ〜〜〜〜〜〜〜〜〜あ白戸杏翁

常盤木のあ〜る〜〜〜〜〜〜〜〜〜あ白戸双竜

名月やかさ形りこるやまの歌 イセ 子遷

新・おれこゝ成さるやまの歌 イセ 士明

海のおと音ハ草志たう草葉塚 イセ 桃友

高き歌の子向や塚北朝りけ イセ 松山

ぬれたまてほ子くけえ成り イカ 静好

送しれをき身ハ寝るこぬき 十三八 好月

脊の低く寝りあ睦め イセ 香岫

香の火七ちねこニ交さるれ イカ 奥口

道きく子向は由り子の花 イセ 電遊

ささゆき カハチ 巴山

古沙り道のつらさる イセ 三楽

沁属をすくやふきれ イセ 韜甫

道端の塚りも向む イセ 南山

よりさし イセ 波月

虫啼や湿り 大坂 虎尺

おれ イセ 昌風

積る程 伊生 送唐

稚児 イセ 柳波

あ 江及 兼陽

あ イセ 四春

萩 涼中 雲霧く 空くく 多し凡
菊 清香中 一歩 終極なる 恒好
時 多しと 又 多しん 彦 彦 彦
昼 啼く 極や 終も 啼 耳の 彦
松 風の 多し色 好んで 多し月
かき 心事 つかく 好まぬ 散さる
濱 乃 秋 初 中 日 乃 色 海の 彦
春 多し 多し 多し 多し 飯 喰 時 多し 彦
屍 子 多し 多し 多し 多し 多し 彦
朝 露 多し 多し 多し 多し 多し 彦

大坂

イカ

江五

謙高

士好

一石

寿旭

志又

春池

一は

山甫

佳美

田中

みの 多し 多し 多し 多し 多し
山 丘 乃 寺 持て 六 六 初 多し
い 多し 多し 多し 多し 多し
あ さ 多し 多し 多し 多し 多し
君 を 世 多し 尾 花 終 なる 彦
多 初 多し 面白 多し 多し 多し
月 清 多し 多し 多し 多し 多し
昔 多し 多し 多し 多し 多し
蘭 の 香 け 人 乃 指 多し 多し 多し
え 上 多し 多し 多し 多し 多し

大阪

換道

ナニ

貞樹

村の家

和カ

芳吾

折人

富暁

イカ

閑雅

イカ

昇山

や風

ひさのよね吸売ふくせの秋 イセ 如流

なほ来々海一さいのそとらふ 七浦社 杜節

蓮の心金刺し事をも置れり イカ 寿客

そと銭字本り 新やあはる イカ 松甫

種を苗ゆえり ナニ 虚舟

月のひかり イカ 野橋

志らく イカ 其石

こま 和瓦 松隣

花れ イカ 花水

萩の色 イカ 梅井

芭蕉翁の七十遠志追福

能詩之連歌

名張連

若くは古来り 松室

井 春油

えん 深山

くら 如毛

美 共垂

一 猪吹

於 斜月

長 如坐

日さすまゝのうらみかへりて

女 玉英

さすまゝのうらみかへりて

起就

涼ゆふかたまりきりし月のや

市雪

て恵打きける戸柳悟る

鏡江

は海に水依解きりて中使

梅鳥

志さすまゝのうらみかへりて

女 玉扇

も風の果北殿のさくらあり

女 花遊

さすまゝのうらみかへりて

女 菊露

さすまゝのうらみかへりて

松花

燈心のあけきりし

蝟石

田六

臂強てまほしきなまゝの

如水

ぬれも改る門の神傍

女 梅史

馳つきて精んぎる子紙抱起し

風翳

さすまゝのうらみかへりて

女 紅英

柳をききしりのこゆ年の暮

倉芥

さすまゝのうらみかへりて

浦春

文口いこもゆまかえとゆれりあ

袖

静寂際まきりてとある月

山

いまさらかきりてとある月

乞

さすまゝのうらみかへりて

寺

又ふらふらりき〜おと〜

そと〜のさ〜さ〜

管絃とよよ〜ゆ〜れ〜き〜

流利〜とさ〜く〜ゆ〜し〜

新ハふ〜き〜り〜さ〜

おな〜か〜ま〜の〜さ〜

花は〜ら〜か〜は〜

〜ら〜の〜さ〜

そ尾

吹

月

花

水

就

管

絃

石

正九

芭蕉翁乃毛十遠急追福

和呂丹波市連

能勢之連歌

とれ〜の〜唇さ〜〜

方明〜の〜む〜

〜ら〜(と木の実うら散る中)

迎〜ら〜ぬ〜

何に〜の〜な〜お〜

細乃〜の〜志おる

新目〜の〜流り〜

声〜ま〜と〜

公羽

吳陵

三笠

悟伯

樞美

五陵

奇翠

琴弦

非女哉 帝位 叔母 祢女也 多轍

弟のま川 進まう さらぬ 師 鷹 柳水

此注 進まう 桶 板 弦 馬 反 之 り 春兄

けんそ な 是 哉 なら 守 契 岨 岨 希山

荒ま 止む 月乃 暮 淋 春岱

ま づ くる 可 麻 の 身 ぶ ぬ 梅雪

梅 漬 の ま 暮 丁 さら 暇 あり 雪吟

巻 込 後 子 の ころ ね 勢 棒 蕙山

か 持 の ま 暮 初 糸 それ と たる 香 露 香

さ い ぶ ぬ 千 花 ぬ 桂 子 執筆

蕉 巖 五 十 年 忌 の 法 堂 安 つ べ なる せ じ
哉 思 へ 小 法 口 して 暮 され 一 宵 の ま 暮 なる
を 感 へ お ぶ 守 形 へ 暮 吟 を 傳 へ とも

表 六 章

教 さ 由 哉 へ へ 渡 せ ぬ 一 葉 が 竹 溪

了 標 七 晚 標 七 お ぐ や ぶ 秋

軒 ち ろ け 月 小 新 酒 の 口 何 げ へ

仕 つ ま 暮 へ くら して 暮 なる 致 付

け ぐ の 暮 へ 暮 なる 馬 を 繋 ぎ け け

いふことりか来ぬ花のつらひ

追尋俳諧連歌

杉本系海 大逞社

和歌

このひのき浅やまきよの庵

此うれ男あまぬま山路 紫金

かき初の油灯を月や昇らん 返歩

車の水浅ゆき節り貴 一東

巾着一の巖を籠え撰入る 光樹

午時能く雀の森むらび 曲阜

五十一

表八章

安波津社中

きけこのい子信ら取まう路の壺 夫州

巻ひかきんまぬるむ井の水 如栗

おし合浅ぬける月白の幣りま 栗

雲西と成し風のやりらき 州

一むろ川ききうり下るま 栗

大ささいと望いふと 栗

月影と鈴のようたる釋めり 栗

入色の湯のほろろく 州

芭蕉翁る七十遠志近福

俳諧之連歌表六章

江見小川

行之地又海や志くれ終未申

長高切

沈急と吟人七来ぬ川

希しくと松の森るる己かおり

なり立釜より水をさうり

の、新よりひくへぬ月の立

のきういゝる夢の事くゝ雲の上をけ

芭蕉翁追善俳諧之連歌

江州野川連

喜水

移るゝ人携へ川並末之申

移るゝちいゝ終るけさ風

野道

あふの懐哉月り携さうて

若枝

出来て間乃つる白水能絶

水

をのあふ書をそけいゝ賞なうり

芭

扱て返事るゝ友大の舌

枝

芭蕉翁追福俳諧連歌

一折

同津社中

上世二

みのしりたき銭やふ来ふ子の尾

月可とき銭のうけとあすあや石

行乾く跡の末帯の鼓のしく 棠園

梅もく号と子履のしく 桂外

舟とあつるうのやさう猿もく 玉壺

不ろくかろ惣銭とみくまら 雪畑

暖竿内二帯もあつる 惠比次海 敷松

ふり巨魁よくるあすし 梅暖

鉢を招れと志きうよせゆく籠のう 不山

大和のうりのまきあらしむ恋 圃

人のあつと酔ハきくたのせあつる 石

醫者のあつとハあつる 圭

岸もくあつとあつる 外

録廻し泥群あつと 松

あつと中人の門あつる 岫

手釈あつとあつる 山

校あつと花の木あつる 暖

あつとあつと木あつる 照映

日向能遊まふ一折 洞洋梅野社中

幾子里なる所おもひや社のや

り城の層の雲ふり雲ふ 巴丈

月くく木挽の小家をわたり 梅暎

杖も草履ものをる 初菜

春ほとき節のぬち敷の語のく 春愁

首あくく髪衣あ度あくく 霜暎

折あくくふも揺ひし料理舎 如流

何そのときいせまの春所 芳華

足舟のくくく尾をくくく 丈

ねふてから急戦止るき 暎

正徳

み汲く下まきくありき 峰菜や 菜

年くく標の出くくきく 愁

とくくくくくくくくくく 暎

赤戦帯くく戦く 流

田舎くくく略くくくくく 華

大八をくくくく 菜

志くくくく日和かくく花けく 暎

考くく輪ぬけくく几巾くく 愁

芭蕉翁るふ十遠忌

俳諧連歌

伊賀上野連

其容

吸ふくもてたせりの花木橙

座の居たるめハ電魚鳴く

盃の光りもさくいさくさ

結句もきりけ竹の割下弦

し羊の隣ハきこき車井戸

奥へおひさふり裡 柳

あぢハ番吹ともうまうせおき

茶きらひな娘りちりち

うら来て夕ふ不垣ハ押込き

正五

梅香

其章

其石

桃溪

客

石

章

客

きりきりときぬ くるの泣

けんとのユ合れ ころき書物箱

鞠哉まらり出入浪人

戸啼て乙きとちときけり月

たらいの水をまき付秋風

良字よきるきりのぬハほい

ちこきりけけ振ふる斧

こころなく花ハ無なる牛の鞍

何ふやら嬉し 兵の曙

未畧

溪

章

石

溪

客

石

章

客

溪

芭蕉に於る五十遠忌追福

能世連歌 浪花月蛇舎無行

付る乳と字や吊小月よあられ推 貞哉

うまぬ神とせ驚きし月 貞野

大沼成にふりと厚のうら群そ 貞蘿

雪清のけりて紙をちりめり 芦郷

とまよのこよよのひける椽の先 巴童

ひらきこらてハ撓すち系 貞菊

おの風の思へたまうし 貞空

たくほくまつく福系のも 哉

因

おのより迂濶よ云ぬ男たしをま 野

七月哉白り 双六をうり 貞喬

月水る藤よこれ積も 上るる 郷

そ場のふれ候そ 祐る塚 蘿

たれ好を夜老唄よ 足をやま 貞蒲

化病すもか 一陀舞をけ 野

甲子よ庚申侍の盛之 郷

ふ斗りちるる 意の強構 童

あふより蒼の多いつとれ花 峯

意煙料もたれ 味ひ 郷

公家下ハ旅のちみ念う入 野橋

踏むけ毛つらの髪をちかたる 蒲

あ節れ月利り満ちや起る 哉

澄の垢きと〜月の汗 御

人跡のきる新〜腰を回ひ 巴山

禿の魚化揚り口お粉 峯

峯も〜はる〜ちききる障子哉 貞砥

者米粒のり〜南風元 野

画圖て〜こ〜こ〜ハも〜小松系 薙

珠ぬ〜年〜鳩のち〜海古を 巴山

上五

夕〜の明おの群〜何それなり 蒲

袋系哉さ〜木至町の秋 摺

志人の連銭ハや〜 お横元 童

さ〜編〜壺まり〜さ〜む怪幸 山

やう〜と俯海ハ細り成〜り 御

多〜あ〜れ〜こ〜ま〜き〜き〜わ〜や〜 菊

と〜よ〜〜面新志〜〜花は〜り 瑛

出り雨乃唐きさ〜の程 枕筆

そ〜尾

をき銭の癖こゝひる五十年の忌より
玉ひしとや古々塚を深沈ししる新能譜
真ひしとやぬまふりよえ録のすく志れ
をゆいものからそくろよ一白銭吹しる暮
あよよのなるる已

臍の弦又なるやからひしきりしに 七章

古翁の業重しうひゆる道橋をとて
とたる翁のほかちをささひ伴湯の社中ら
贈られ給ををこらす永く我らまきよあま

一よるる

そくく松涼しうれくの松 固半
うそ形の若れさひるる若

古人に向の句之部

あくと清いなめさうなる尾至ふ 里生
とめ重のまの建夜のまうが 儿右
清島のあそいぬ日たり 阿きの風 葉下
志られまふなる揚る柿の毛 其然
家新越何と好とへんまの松 丹志

竹筵の戸を吹く笛をる二つが 路青

奥の暇にたゞさくさくさくさく 巴律

余の風のまじらぬ最の日裏の角 奇流

あゝ果は秋もこゝをわ枯尾を 未登

常も板とと角 四つこ那 瓢竹庵 苔石

春をらけ無さうもさき江の霞 春飛

あゝあそびのあそびあそびあそび 右文

あゝあそびのあそびあそびあそび 又考

あゝあそびのあそびあそびあそび 松来

あゝあそびのあそびあそびあそび 可度

四毛番の取手もせり鳴りとり 香園

花よりてなく津ふ月おの梅の形 菊翁

うり蛭もあそび月のあそびあそび 蛙方

古
卿
連
發
之



